

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

（令和5年3月6日 午後1時40分）

●議長（佐藤武雄） 休憩前に続き会議を開きます。

通告の4、森山木の実議員。

1、委託事業の展望について

議席番号8番、森山木の実議員。

◆8番（森山木の実） 議席番号8番、森山木の実です。今日は私がずっともやもやしていて、割としつこく聞いていた案件について、そろそろけりを付けたいなと思って質問いたします。執行機関の体制も新しくなりましたし、春ですから心機一転、もやもやを振り払おうと思っているので明解な答弁を期待いたします。マスクを外させていただきます。まずは質問その1、テレワーク事業の現状と課題、そして今後の展望は、ということでお聞きします。町長は昨年議会定例会12月会議の再開挨拶で、町全体がテレワークやワーケーションなど新たな働き方の受け皿として機能するよう、町及び関係団体の総力を結集して取り組んで参りますとおっしゃいました。このテレワーク、町で言えばノマドワークセンターと呼んでいる、矢保里の館の事業ですね。町長にまずお聞きしたいのは、町長はこのノマドワークセンター、テレワーク事業について具体的にどういう認識を持っておられますでしょうか。それをお聞きしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 森山議員からのご質問にお答えいたします。ノマドワークセンターについて、ということでございます。信濃町矢保里の館及びやすらぎの森多目的広場の設置及び管理に関する条例。これは平成30年に成立した条例かと思いますが、この1条において、森林資源や景観など豊かな自然環境の中で、情報通信技術を活用して先端技術産業の振興を支援することで、地域の次世代産業の育成及び既存産業の競争力強化による新たな就業環境の創出に資するため設置する、との目的が掲げられております。矢保里の館を法人向けの貸付型テレワーク施設に改修することにより、先端情報関連企業を誘致していこうとするものでございます。信濃町の豊かな自然に囲まれた環境の下で、都市部のオフィスと同じように仕事をしたり、あるいは研修の場として利用いただくための設備を整えておりますので、施設の有効な利活用が図られるよう広く情報発信してまいりたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 今町長がおっしゃった条例の第1条、目的ですね。それは今、現実と合っているでしょうか。雇用の創出とか、そういうことができているかどうかなん

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

ですけれども、どう思われますか、認識として。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 今の現状ということであります。私もノマドワークセンター何回か行って設備の内容とかもお聞きしたのですが、たまたまコロナ禍が、この3年間コロナ禍ということでなかなか利用が、目標としていたレベルに達していないというお話もお聞きいたしました。しかしながらあのような施設を使いたいとおっしゃってくださっている企業さんも少なくないという話もお聞きしておりますので、5月以降コロナの規制等が緩和された暁には、多くの企業さん、あの施設を利活用していただけるのではないかと期待しております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 割とコロナだったからというのは良いエクスキューズだと思うのですけれども、若くない町民の皆さんには、具体的にはこのノマドワークセンターって何だいと、知られていないということなんですね。私が見たところは、令和元年度の決算報告なんかを今読んでいたのですけれども、その頃からもう利用者はそんなに多くない、どうですかと聞くたびにアップルが来たという返事しかない、みたいなものなんですね。他にもちょっと来ていただいていると思うのですけれども、あまり具体的な数字も出てきていませんし、ホームページは平成のままですし、どうなっているのだろうとは思っております。若くない皆さんには知られていない、さっき言いましたけれども、その他にも私のあそこのイメージというのは、食べる所が遠い、宿泊先も別に見つけなければならない、オンラインという働き方だけなら他にももっと便利なペンションや施設があるじゃないの、おまけにご飯を食べに行くのに交通が大変不便という、否定的なイメージ、でも景色は素晴らしいですよ、おまけに静かである。それでも事業として成り立つのは難しいんじゃないかなというのは、私の個人的なイメージなんです。でもそれにしてもせっかくある良い景色の所なので、何とか上手くいったらいいなという思いは私も持っております。しかし問題点が結構ありまして、今日はそのもやもやを何とかしたいということで今お聞きしているのですけれども、そのもやもやの1つの、町長は令和3年度の監査委員の歳入歳出決算審査意見書はお読みになっていますか。8ページから大体10ページくらいなんですけれど。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 令和3年度の監査委員さんの報告書、目を通させていただきました。その中で何点かご指摘がありましたが、監査委員さんとの見解が異なる、町の方の見解と少し違うなという点もあったという話をお聞きしております、それらにつきましては、これまでに監査委員さんに改めて細部を説明していただく中でご理解をいただい

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

たと聞いております。もし詳細が必要であれば総務課長から説明させていただきます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） それでは詳細というお話ですので、私の方から詳細にご説明をさせていただきたいと思えます。監査委員さんの答えすべてがどうのこうのという話ではないのですが、見解の相違といいますか、内容の相違といいますか、そういうことをご指摘いただいた部分について10月の定期監査の際に我々の方からご説明を申し上げたと、そしてご理解をいただいたということでございます。まず1点目です。出勤簿が1枚の印刷されたもので出されているじゃないかというお話がありました。大体今の企業さんというのは、判子を出勤簿に押すということがありません。すべてコンピューター管理です。我々の方とすると、1年間どういう勤務をしていたのかを欲しいということでお願いをして出てきた成果物がその1枚のものであった、ということをお話ししましたらご理解をいただいたところでございます。今どき、その判子を押すという企業さんはあまりございませんので出勤管理というのは大体パソコンというか、コンピューターで管理をされております。2点目です。問合せ対応、請求書作成というのが56日もあったではないかというお話でした。これは勤務月報というところの勤務内容の欄にそのことが書いてあると言われたのですが、実際に勤務月報の勤務内容の欄をよくご覧いただいたのですが、問合せ対応、請求作成と書いてあるのです。請求書作成とは一切書いてございませんでした。これはどういうことかという、企業さんから電話が来て、こういう資料が欲しいとか、こういう場合はどうすればいいのかということの問合せがあります。それに対して対応するためにいろいろな書類、資料を作る、そういう期間でございます。それを簡略化して書いたのが、問合せ対応、請求作成ということなんです。請求されたものを作成するという日でございます。「書」という言葉は一切使ってございません。ですので、そういうことですよとお話しをしましたらご理解をいただいたということです。4つあるのですがもう一つは指定管理者と地域活性化起業人の実績報告書が似通っているではないかというご指摘もございました。これは地域活性化起業人の実績報告だけで、内容でいいのですが、代表者が同一人であったために、指定管理者の実績報告にもその内容まで入れてしまったということでございます。それは企業の方にも確認をさせていただいたところでございます。それともう一つ、IOTの実装の関係で委託業者のホームページに3年の成果である実装実験をもって目標を達成し、信濃町での試験は完了したという記載があるではないかと言ったのですが、今もホームページをご覧いただければすぐに分かるのですけれども2年目の成果、これ3年間の期間中だったのですが、3年間やったわけですが、その2年目の実証実験の目的が終了したと。で試験が完了したのだという括りの部分だけを取られて、これは3年目ではありません、2年目の時の段階のことです。その後の続きもありまして、今後も開発を継続していく計画でありますという記載も入っておりますので、それもホームページ上でご確認をいただいてご理解をいただいたということでございます。監査委員さんからの指摘がすべて問

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

題なかったとは思いませんが、こういうことで一部についてはご説明をしてご理解をいただいたという状況でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） わかりました。で、その一部以外の問題点もまだ残っていると思うのですけれども、それはもうだんだん解決されているのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 例えば今後、今相手のこともありますので、指定管理の話もありますので、相手とお話をする中でどのようにやっていけばいいのかということを進めております。もうじきこの指定管理についても終わりの時期がきますので、また再募集をかける時にその問題が引きずらないように改めてやっていこうということで話を進めているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） そうしますと、次の募集の時には問題点はクリアになっていると期待してよろしいのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） そのつもりで進めているというところでございます。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 指定管理料なんですけれども、私、やはり年間22万というのは適正ではないような気がするのです。ちゃんと適正な指定管理料で責任を持って運営管理をしてくれるように、厳しくというか真剣に向き合っていっていただけたらと思うのです。安過ぎると、この金額ではこれはできなかったとか、そういうことが多々起こるのではないかと思うのです。だからちゃんと運営管理がスムーズにいけるような適正な指定管理料に決めていただけたらと思うのですけれども、そこの考えはいかがですか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 22万円というのにはキャンプ場の管理になります。キャンプ場は産業観光課で管理をされております。ノマドについては一切貰っておりません。そういう形でご提案をいただいて、それでできるということで採択をさせていただいた、プロ

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

ポーザルで審査をさせていただいたという状況でございます。今後、今お話のあった内容についても検討はしますけれども、今まではそれでちゃんとやっていただけたという実績もあるということは確かだと思います。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） その「要りません」というのは、やはり良くないと思うのですよ。やはり雪で潰れた所があるというような時に、お金を貰っていないから直せなかったということではちょっと違うと思うのですね。ちゃんときちんとそこは話し合ったり、適正な管理料を支払ったりすることが大事なのではないかと思うのです。そこは町長はどうお考えでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 今、森山議員からご指摘いただいたとおり、管理していただくにあたりましてもお金がかからないということは無いかと思います。いろいろな設備を管理するわけですので、必要な経費がかかるかと思えます。ヒアリングの段階でいろいろな条件を掲示する中で、適正な価格設定に努めてまいりたいと思えます。よろしくお願ひします。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 本当に景色はとても素晴らしい所ですし、ぜひ見てもらいたい。1週間くらいいて、私なんかは一坪農園を5つか6つ造って、それ付きでテレワークをやってもらったらどうか、なんて思ったこともあるのですが、でもあそこを遊ばせておくにはもったいない場所ですので、何とか安売りしないで、何かプレミア付きで皆が使いたいと思ってくれるような場所にしていただきたいなと思うんです。もちろん有名企業の方が来てくれて良かったというものの、利用者殺到というわけではないんですよ。信濃町の事業として、これは上手くいっていると職員の方が目をキラキラさせて言ってくれるかどうかという、はてさてな、と首を傾げてしまうんですが。どうでしょう、第6次長期振興計画では令和5年度の利用者数の目標が383人、目標をオーバーするくらい、オーバーしてしまって困っているよと、目をキラキラさせて言っていたら、私も、また町の皆さんも信濃町のテレワーク事業が凄いと安心できるというものではないかと思うのです。町民に余り知られていないというのが、ちょっと私も皆さんに話しにくいところなんですけれども、いくら広報で書いたとしても、そこを読み飛ばしてしまうと、この間言われました。書いてあるのは知っているけれど読み飛ばしてしまうと。だけど1度は行ってみたいけれどすごく行きにくいと。キャンプだって町民は無料だと言われているけれど、すごく行きづらい。そののところをもうちょっと、門を広げられないものかと思っているのです。そこはどうでしょう。

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 町民の皆さんへの情報提供、大変重要かと思えます。ですので、私思いますのはやはり、知っていただくには資料等で見るのもいいのですが現地へ足を運んでいただくという意味で、見学会のようなことをやっていけたらいいかなと思います。また、ノマドワークセンターの利活用の方法ですけれども、今森山さんからお話がありましたように、例えば森林セラピーであるとか、あるいは農作業、そしてまた隣のキャンプ場と一体となった施設ですので、泊まりはキャンプをしていただくとか、そのような新しいプログラムを企業さんから提案いただいた形を具体化していくというようなプロセスで対応できればいいのではないかと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） そうですね。小さな畑でもあれば、植えた時、収穫する時は必ず来てくれると思うんですよね、草取りには来ないかもしれないけれども。何かアクティビティでいいものがあればと思っています。代表監査委員の指摘の方もクリアできそうですし、この問題についてはそろそろ私も引っ込んでいこうかなと思っています。では、次の質問に移りたいと思います。これもテレワーク推進事業の一つですね。令和元年度の決算委託料を見ますと、官民連携による地域課題解決に向けた受入体制推進業務、というのがありました。報告書がこちらですけれども、信濃町の地域課題、例えば空き家増加、それから過疎地域の増加、それから世代間負担の増加、若者の転出、老老介護、交通弱者対策などなど、いろいろと課題があるわけです。それを解決するためだったと思うのですけれども。先程もちょっと答弁の中で出ましたが、課題設定委託料、私は最初これは何だろうと思って見せてもらったのですけれども、あまりいいものじゃないじゃないかと思って見ていたら、なかなか良いことが書いてあって思わず読んでしまった報告書なんです。大手の自動車メーカーだとか、大手の運用会社が信濃町に来てくれていろいろと町の職員の方と話し合いをした、それから現地を見た。実証実験もしたのでしょう。で、そのまま帰ってしまったとって見せてもらったのがこれなんです。で、帰ってしまったのはいいんですがその後どうなっているのかお聞きしたいと思っています。どうなっているのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 今ほど議員さんがおっしゃったように、官民連携による地域課題の解決に向けた土台ですね、プラットフォームを作るために進めた事業でございます。今お話のあった大手自動車会社さんとか運輸会社さん、流通関係の大手さん等、他の方も入っていただいておりますが、やはり自治体だけで解決するというのはなかなか難しい時代です。やはりそこに民間の力をお借りして、そういうことに解決に向けて進めていこうということで始めた事業でございます。今どうなっているのかというお話でござ

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

います。そこへ参画いただいた企業さんですが、本年度こちらの信濃町で電動バギーを開発したいということを町の方へ言ってられました。そういうことで、町の方とすると、町とやるだけではないので、インバウンド事業に取り組んでいる町内の事業者さんを紹介させていただいて、そちらの方とお話をいただいているところでございます。もう1件ありまして、先程は自動車会社さんだったのですが、もう一つは流通の会社さんですが、その流通の会社さんは日本の中で、他の自治体ですけれども手を組んでドローンで配送をやられているんです、物資の配送を。その関係でこちらへ訪れまして、我々ともお話をし、情報交換をさせていただいたという。令和4年度については今のところ2件、そのようなお話で、1件はここでやりたいと、もう1件は情報交換をさせていただいた状況でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 進んでいるということですね。2021年度の予算は484万8976円で、町の負担はこの4分の1と、それでよろしいですね。最初は何だこれかと思って見ていたのですが、なかなか良くできていまして、本当にこの中に書いてあることで、外からいきなり来て見ただけで何かを言ってもだめだと、そのようなメッセージが込められていると思います。信濃町の役場の長所もちゃんと見てくれた上で読みましたか。役場の長所、他の市へ行ったところ、全然担当者が一人いるのだけれども進まないのだが、信濃町は担当者が凄く良くやってくれてどんどん物事が進んでいったと、そのようなことまで書いてあるのです。見てくれているところは見てくれているのだと思いました。ありきたりの長所ではなくて役場の仕事ぶりがいいところを見てくれた、読み取ってくれたと。その上で一緒に仕事をしていく企業を紹介していきたいと、そのように書いてあります。私は、もしかしたら実験して帰ってそれっきりではないかと思っていたのですが、そうではないと。今聞いたところ、また新しい事業に結び付くことができそうな気がするんですね。いつも思うのですが、職員が自分で考えて、自分でビジョンを作ってこうしたいんだということがあってこそその外部のコンサルということも書いてあるんです、ここに。さすがだなと思いました。ですから知識のある人は使いようですから、どんどん使って、この報告書でもその考え方がそこに流れていると思うのです。信濃町の課題を、このイラストで、いくつかですね、全部とは言わないけれども一つでも二つでも解決できればこれは本当に有難いことで、またぜひ連携を進めていただきたいと思いますと思うのですが、その連携として今以上に結び付きというか、今2社だけと言わずにもう少し増やすような兆しはありますでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 2社が令和4年度についてはそのようなお話でございます。今後も総合戦略、これを進める中ではやはりそのような企業さんとも組んでいきたいと。また総合戦略に当るにあたっては、企業版ふるさと納税をあてることも可能でございま

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

すので、そういうことも考えながら進めてまいりたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 森山議員。

◆8番（森山木の実） 今、ふるさと納税の話が出ましたが、これについては私も言いたいことは山ほどあるのですが今は言いませんけれども、使い道が事業に振り分けるよりも、もう少し楽しい使い方ができるのではないかと思っております。それと信濃町の課題としてはたくさんあるんですが、もしかしたら外部の企業に頼らなくても解決していけるような、老老介護ですとか、そういうこともあるのではないかと思うのです。介護疲れの人が周りにもいるんです。ご自分も病気を持っておられるのにご両親の介護をしていると。町は一生懸命協力してくれていると思うのですが、やはり疲れるのはご本人。そのようなところにも目を向けていただいて、これからも、せつかく町長が代わったことですから、優しい信濃町になっていってくればいいなと思っております。以上で終わりますが、今日の話には関係ないのですが、他に陽だまりセンターだとか、地味でも頑張っている指定管理者がいるわけです。地味でも頑張っている指定管理者にエールと感謝の気持ちを送りつつ、今日の話に大いに関係ある指定管理者の方には自分の仕事に誇りと責任を持って町をよろしくと、議場からですがお伝えいたしまして私の一般質問を終わります。

●議長（佐藤武雄） 以上で、森山木の実議員の一般質問を終わります。この際、2時25分まで休憩いたします。

（終了 午後2時10分）